



例題 1

次の計算をなさい。

(1) $\frac{4}{7} - \frac{1}{7}$

(2) $\frac{1}{2} - \frac{1}{3}$

(3) $\frac{11}{18} - \frac{5}{12}$

(4) $1\frac{13}{30} - \frac{21}{25}$

(5) $3\frac{4}{7} - 1\frac{3}{28}$

(6) $\frac{17}{24} - \frac{1}{12}$

答え (1) $\frac{3}{7}$ (2) $\frac{1}{6}$ (3) $\frac{7}{36}$ (4) $\frac{89}{150}$ (5) $2\frac{13}{28}$ (6) $\frac{5}{8}$

[例題 1 の解説]

(1) 分母が同じ分数の引き算は分子をひくだけです。

$$\frac{4}{7} - \frac{1}{7} = \frac{3}{7}$$

(2) 分母の異なる^{こと}分数は通分をしてから引き算をします。

2と3の最小公倍数は6です。

$$\frac{1}{2} - \frac{1}{3} = \frac{3}{6} - \frac{2}{6} = \frac{1}{6}$$



- (3) 18と12の最小公倍数は36です。

$$\frac{11}{18} - \frac{5}{12} = \frac{22}{36} - \frac{15}{36} = \frac{7}{36}$$

- (4) 30と25の最小公倍数は150です。

通分をしてから帯分数を仮分数に直して引き算します。

$$1\frac{13}{30} - \frac{21}{25} = 1\frac{65}{150} - \frac{126}{150} = \frac{215}{150} - \frac{126}{150} = \frac{89}{150}$$

- (5) さきに整数部分だけを引き算します。

$$3 - 1 = 2 \text{ より、} 3\frac{4}{7} - 1\frac{3}{28} = 2\frac{4}{7} - \frac{3}{28}$$

通分をしてから帯分数を仮分数に直して引き算します。

$$2\frac{4}{7} - \frac{3}{28} = 2\frac{16}{28} - \frac{3}{28} = 2\frac{13}{28}$$

- (6) 24と12の最小公倍数は24です。

$$\frac{17}{24} - \frac{1}{12} = \frac{17}{24} - \frac{2}{24} = \frac{15}{24} \quad \text{約分できる場合は約分します。}$$

$$\frac{15}{24} = \frac{5}{8}$$



例題と解説

例題 2

次の計算をなさい。

$$1\frac{2}{3} - \frac{1}{12} - \frac{1}{4}$$

答え $1\frac{1}{3}$

[例題 2 の解説]

分数が3つや4つになっても2つの場合と同じです。通分してから引き算をします。

3と12と4の最小公倍数は12です。

$$1\frac{2}{3} - \frac{1}{12} - \frac{1}{4} = 1\frac{8}{12} - \frac{1}{12} - \frac{3}{12} = 1\frac{4}{12} = 1\frac{1}{3}$$

ポイントまとめ

- ・ 分母が同じ分数の足し算は分子をひくだけです。
- ・ 分母の異なる^{こと}分数は通分してから引き算をします。
- ・ 分数が3つや4つになっても2つの場合と同じです。通分してから引き算をします。
- ・ 約分できる場合は約分します。